領域別WG　検討状況概要（1/2）

領域	目的・背景	検討進捗状況	今後の予定・課題
建設領域WG	●建設領域のCE推進におけるロードマップ策定のための現状把握および**制度・技術・流通/市場の観点で課題の整理**	実態把握・調査分析 → 課題検討 → 目標・KPI設定 → ロードマップ作成 → 実証・実装 ●素材ごと(鉄/アルミ/石膏ボード/ガラス/プラスチック)に課題を深堀しつつ、建設領域の資源循環関係者(メーカー、リサイクラー等)へのアンケート・ヒアリングを実施した。 ●優先して取り組むべき課題、主な主体、時間軸をロードマップとして示した。	●WGメンバーにおいては、各社での個別の取組を進めるとともに、建設領域WGの活動を通じて育まれたCEに対する共通認識を基盤として、意見交換や連携等の活動を行い、建設領域への貢献を図る。 ●WGメンバーのうち建設会社５社においては、**易解体設計および情報流通プラットフォームのシステム構築**に向けた活動を行う。
自動車領域WG	●自動車産業における長期ビジョン・施策・ロードマップを作成し、**業界団体が先導し関係者全体の取組促進**を図る ●供給側業界の具体的な取組内容等について、**動静脈一体となり議論**を行う（環境省自動車コンソとも連携）	需要：実態把握・調査分析 → 課題検討 → 目標・KPI設定 → ロードマップ作成 → 実証・実装 供給：実態把握・調査分析 → 課題検討 → 目標・KPI設定 → ロードマップ作成 → 実証・実装 ●WGの開催のほか、自工会と各団体とで個別に長期ビジョン、供給可能量、課題、施策、ロードマップ等を幾度も議論のうえ、最終報告書を完成。	●環境省主催の産官学コンソーシアム※で示された**再プラ集約拠点と連携しつつ、CPs内の他領域WGや静脈事業者と意見交換**を行い、安定した量と質の再生プラスチック供給、活用のための施策を検討する。 ※自動車向け再生プラスチック市場構築のための産官学コンソーシアム
アルミニウムWG	●**アルミ展伸材の再生材利用を促進**することを通じて、**アルミニウムの国内資源循環の発展とCO_2排出の削減、経済安全保障への貢献**を図る	実態把握・調査分析 → 課題検討 → 目標・KPI設定 → ロードマップ作成 → 実証・実装 ●WGメンバーへのヒアリングを通じて現状とギャップの整理を行い、その整理結果を踏まえて3つの分科会を組成。 ●各分科会にて課題や取組施策の深堀を実施し、これらの結果をとりまとめてアルミニウムWGとしての「ありたい姿」の実現に向けたロードマップを作成した。	●次年度は**下記の課題から具体化の検討**を進める。 ・再生原料使用製品の利用促進に向けた制度整備 ・スクラップの公平な取引市場の構築 ・国内のスクラップ資源循環の促進 ・スクラップ活用拡大に向けた規格化・技術開発 ・CE具体市場の創出 ・地域活性化
鉄鋼WG	●新たなインセンティブスキームの導入やインフラ整備により**質の高い鉄スクラップを新規に創生**させることで、今後の鉄スクラップの需要拡大スピードに応じ現在輸出されている鉄スクラップと同程度の**国内循環量の増加**を目指す	実態把握・調査分析 → 課題検討 → 目標・KPI設定 → ロードマップ作成 → 実証・実装 ●昨年度に整理した現状の課題と2030年のあるべき姿について、本年度は実現に必要なアクションを策定し、ロードマップへ落とし込んだ。 ●また、各アクションの足がかりとして、高品位鉄スクラップの定義の検討、2030年度における鉄スクラップの需給推計、鉄源の国内回収量増加に向けた関係団体へのヒアリング等を実施した。	●ロードマップに従ってアクションを実行段階へと移行。 ●実行にあたっては、他産業や政府との連携も検討し、特に**高品位・成分値保証スクラップ創生**に取組む。 ●高炉メーカーによる革新大型電炉の本格稼働が開始する2028年頃がマイルストーン。 ●次年度は**高度選別解体、シュレッダー等による鉄スクラップ高品位化の実証**に注力予定であり、そのために必要な政府支援も引き続き要請。

©copyright Circular Partners

領域別WG　検討状況概要（2/2）

領域	目的・背景	検討進捗状況	今後の予定・課題
プラスチック容器包装WG	●循環型CRの早期実装とMRの高品質化による**2030年までに再生プラスチック30%利用を達成する** ●動静脈の連携で**再生利用の実現性を分析/検証**し、加えて**手法の最適解を検討する**	実態把握・調査分析 ／ 課題検討 ／ 目標・KPI設定 ／ ロードマップ作成 ／ 実証・実装 ●地方都市でのプラスチック資源循環システムの構築に向けたソーティングセンターを軸とした実証事業を実施。素材別/形態別のプラスチック生産量調査を実施。（プラ推進協） ●大都市圏におけるCR・MRの実現可能性実証事業を実施。（CLOMA）	●高度選別事業(プラ推進協)、大都市圏におけるCR・MR(CLOMA)の実証事業を実施。 ●実証事業を踏まえて抽出した課題に対して、今後検討・追加検証を実施する。 ●**選別と選別物利用の高度化により、MR、CR再生材を利用した製品の実用化**の目途をつける。 ●プラ容器包装マテリアルフローのありたい姿と、そこに向けた必要な施策を設計する（制度、支援）。 ●**製品設計を具体化するための動静脈連携**。
清涼飲料用のPETボトル循環WG	●全国清涼飲料連合会が掲げている**2030年ボトルtoボトルリサイクル比率50%以上**の目標達成に向けて、**課題、取組施策等のとりまとめ**を行う	実態把握・調査分析 ／ 課題検討 ／ 目標・KPI設定 ／ ロードマップ作成 ／ 実証・実装 ●PETボトルのマテリアルフローを整備した結果、メーカー努力だけではボトルtoボトルリサイクル比率50%の目標達成は困難と結論。 ●「2030年のあるべき姿」と現状から課題を抽出し、各課題に対する取組施策を整理した。また、カテゴリ別に目標・KPIの設定を行い、これらの検討結果をロードマップをとりまとめた。	●**サプライチェーン関係主体へのヒアリング調査を通じ、施策の強度・効果の見直し**を行う。 ●これらの見直し結果を基に、目標、取組施策、ロードマップのブラッシュアップを実施し、ロードマップに基づいた活動を実施していく。 ●再生材の利用拡大に向けた実証事業から得られた知見を活かして、再生材の消費者に向けた価値訴求に繋がる啓発活動を行う。
電機・電子製品領域WG	●既に家電リサイクル法の下で水平リサイクルの実績を有する家電製品を対象とし、主に**再生プラスチックの利用に焦点を当て、現状と課題、今後の取組の方向性を整理**する。	実態把握・調査分析 ／ 課題検討 ／ 目標・KPI設定 ／ ロードマップ作成 ／ 実証・実装 ●国内市場の見通しや、電機・電子製品領域WGに参画する各動脈企業の今後の取り組み方針を整理した。 ●各企業の取組方針を踏まえ、家電リサイクルプラント由来再生プラスチック利用1.5万トン/年の堅持をはじめとする2030年に向けた3つの目標を設定し、目標達成にかかるアクションプランを作成した。	●電機・電子製品分野としての目標・KPIを各企業へ落とし込み。 ●アクションプランの実証・実装に向けた具体的なアクションをフォロー。特に、**家電4品目における再生材グレーディング検討**を優先関与部分とし、**実証・実装に向けて動静脈連携も含めた取組**を推進。 ●必要に応じ、各ステークホルダー(静脈産業や政府等)と具体的に連携。

©copyright Circular Partners